

事業報告

講座名	出前講座 ※出前講座実施と懇談会
日時・場所	令和5年5月17日(水)13:05～ 平生町立佐賀小学校 音楽室
参加者数	児童18名、地域住民14名、教職員4名

1 概要

(1) 出前講座実施にあたり

佐賀小学校より、4月当初に、5月に実施予定の萩方面への5・6年生合同の修学旅行の事前学習として出前講座の依頼を受けた。(萩方面の見学先—松下村塾、城下町、明倫学舎)

依頼時に、5・6年生の社会科の教育課程については、複式指導は行わず、通常の教育課程によるものであるとの説明を受けた。このことから、児童の実態として、いずれの学年も歴史学習を経験していない状況であるとともに、発達段階の違いも含めた歴史事象に対する興味・関心の差が課題の一つと考えられた。また、講座の趣旨は、歴史学習の指導ではなく道徳教育に基づくものであり、教科・領域等を進める過程において歴史事象にふれながら道徳教育の内容項目に迫り、児童の志を育むことを目的とすることも確認した。これらを踏まえ、学校の教育課程から、総合的な学習の時間での実施とすることとした。なお、取り上げる先人は、担当教員との話し合いにより、松下村塾に関係のある吉田松陰とした。

講座における担当職員と担当教員との役割分担として、担当職員が授業の流れ等を提案することとした。なお、講座に関わる教員が、今後の教育実践への取組の参考となるよう、事前打ち合わせ時の資料提示にも配慮することとした。

(2) 事前打ち合わせについて

※4月27日 佐賀小学校にて以下の内容で事前研修を実施

○DVDの視聴(吉田松陰 平成25年度) ※DVDの概要資料を活用

○資料を基に、出前講座の流れについての共通理解

- ・授業の流れや役割分担、場づくりについて
- ・小学校学習指導要領との関連(特別な教科道徳にある内容項目と本授業との関連)
- ・学校への依頼事項等(講座紹介、教員アンケート等)

(3) 出前講座の実際

学校が事前に本講座を地域住民にチラシを配布して紹介したこともあり、授業会場が、教室から音楽室へと変更され、地域の方が14名参加された。

講座の主眼は、「萩方面の修学旅行事前学習において、先人の業績や幕末等の社会状況等をつかませるとともに、DVDを活用し、先人の生き方や思いに注目し、自らの夢や生き方について考えさせる」である。また、DVDの内容から、求める道徳的価値(内容項目)は、A-(5)の『希望と勇気、克己と強い意志』がふさわしいと考えた。

授業は、導入部分の、当時の社会状況の説明に少し時間がかかったが、概ね計画に沿って進めることができた。また、場づくりの一つとして、先人学習コーナーの「志」の額も持参して活用し、「志」の意味について考えさせた。「志」は、個人の強い思いだけでなく、まわりや社会のために役立つことも押さえた。このことから、高学年としての平素の委員会活動や、学校の短期目標(合言葉)「進んで考え協力して実行 だれかのために何かのために」に継続して取り組むことが、「志」につながることを呼びかけた。

内容が、5年生にとっては、少し難しいようにも感じられたが、メモをとりながら自分の考えや気持ちをしっかりとプリントに記しており、授業の主眼に迫っていたように思う。また、児童のみならず、参加した地域の方も真剣な表情で講座に参加され、必要に応じてメモを取っておられた。

授業が終わり、児童が教室へと移動後、参加された地域の方との懇談の場が用意された。担当職員が授業の意図や内容の説明をし、先人学習コーナーの紹介を行った。参加者よりDVDの中で紹介される吉田松陰の句(「身はたとひ・・・」)について質問があり、再生しながらその意味を説明した。また、他の内容の視聴の希望もあり、吉田松陰の実習編と毛利敬親の人生編を再生したのだが、いずれも興味深く視聴されていた。